

佳作

人のために

山形県米沢市立第三中学校

3年 小島 未裕

「あなたの夢は何か、あなたが目的とするものは何か、それさえしっかり持っているならば、必ずや道は開かれるだろう。」

インド独立の父、マハトマ・ガンディーさんの言葉です。

私は、人の役に立つ仕事、人を助ける仕事をしたいと思っています。そう思ったきっかけはドラマでした。

小さな頃から、ドラマを見るのが好きで母と一緒にテレビの前で楽しんでいました。ドラマは、実際に人が演じているため、情景描写が分かりやすく、登場人物に感情移入することで、自分もいろんな感情を楽しむことができると思います。

今まで見てきたドラマの中で「コウノドリ」が一番心に残っています。命の大切さ、命をつなぐ大変さを、産婦人科を舞台としたこのドラマから学びました。個性豊かな医療チームといろいろなことを抱える母親たち。母になるという責任だけでなく、この社会の中で問題となることや、働きながら母になる難しさ、さまざまなことが細かく描かれていて、とても考えさせられました。その中で私は、ある人物がとても目に留まりました。

その人物は、江口のりこさん演じる「向井祥子」です。メディカルソーシャルワーカーといって、患者さんをメンタリティの面で支えたり、退院後の生活支援をしたりする仕事です。この仕事は、直接現場で手術などをするのではなく、相談を受けるという、このドラマではじめて知った仕事でした。患者さんをこのような形で支えることで、安心できるのではないかと思いました。

また、人を助けるというのは、いろいろな形があると思いました。助けようとした行動の形は違っていても、気持ちは同じだと思います。向井さんのように、患者さんを治すのではなく、患者さんを支えるという助け方。どちらも同じ気持ちのはずです。

私が将来、医者や、看護師、またボランティア活動をしていても、自分の目標がずれたのではなく、方法が違ったのだと考えました。自分に一番合っている方法で、目的をやり遂げたいです。

さらに、仕事の種類は私が思っている以上に多いと思います。

今、中学3年生で、はじめての受験に頭を悩ませています。この時期は、将来について考えることが多くなります。調べれば、自分の知らなかった仕事

たくさんでできます。私はまだまだ社会を知りません。だからこそ、選択肢を広げることができます。私が持っている漠然とした目標を達成するためには何ができるかを考え、目標を見失うことなく、頑張っていきたいと思います。

人を助ける、役に立つ行動は、相手を笑顔にさせ、心を温かくしてくれます。ちょっとした勇気を出して、一歩踏み出せば、自然と空気が温かくなり、輪が広がっていくと思います。その自分がした行動に対して、「ありがとう」と言ってもらえたら、とても嬉しいし、そこから築かれていく関係は、素晴らしいものです。

私は、「ありがとう」を大切にしていきたいです。人を助ける、人の役に立つことで、ありがとうが届き、助けてもらったら、ありがとうを届ける。当たり前だからこそ、忘れてはいけない言葉で、当たり前だからこそ、大切にしていきたいと思います。

2022年、現在は、コロナウイルスや事件や事故、いろいろなことが起こっています。その中には、人が亡くなるなど、悲しいこともあります。そんな今だからこそ、互いに支え合い、助け合う、温かな関係を築けたらいいと思います。そしていつか大人になったら、感謝の気持ちを忘れず、人を助ける、役に立つことで、明るい未来へ進んでいきたいです。